

学習内容報告書 フォーマット

学校名	糸満市立糸満中学校
授業者	3 学年職員 11 名

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

総合的な学習の時間「海洋教育を通して生き方を考える」

1-2. 学年

中学 第3学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間 特別活動 体育 社会 道徳 理科

1-4. 単元の概要

これまでの学習において生徒は、「海を守る」「海を知る」について学び、ビーチクリーンを実施やその他体験活動を通して他者と協力することを学んでいる。また、環境の面から海洋に関する課題や調べたいことをグループで共有するなどして知識を深めている。

昨年度まで新型コロナウイルス感染防止の理由により、地域行事の中止などにより、海洋と地域に関する課題を学ぶという機会が少なかった。今年度は海洋教育の最終学年でもあることから、これまでの「海と人のつながり」を「地域と人・海とのつながり」に視野を広げ、生徒の地域参画を意識した授業展開を行い、防災・減災を視野に入れた体験活動・講話（対面・オンライン）・NIEの手法を入れたワークショップ（グループ討議）での指導を行う。そうすることで、学習者主体の行動思考の学習になると考える。また生徒の既習の内容をつなげるため、指導法を工夫し、知識の習得と考察、体験・技能の活用を効果的に往還させる学習内容を設定した。学校では学ぶことのできない体感的・実感的な活動を行うことで、生徒の中に自助・共助の心を育て地域内外に参画することのできる自分の役割について考える単元とする。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

【単元設定の理由】

海洋教育では、「海に親しむことから学習を始め、海を知ることによって海への関心を高め、さらに海と人との共生のために、海を利用しながら海を守ることの大切さを学ぶ」を通して地域の課題を自分事として具体的な解決策を考え実践に結び付けるよう各学年特色ある学習活動を行っている。それらの4つの視点「海を親しむ・海を知る・海を守る・海を利用する」を軸に、新たに自助・共助の視点を取り入れ、海と陸、地域の課題を自分事として解決策を考え、他者との協働活動を通して、自ら意思決定や行動できるようにさせたい。

【ねらい】

- (1) 糸満市教育課程特例校「海人（うみんちゅ）科」における海洋教育の取り組みの充実を図る。
- (2) 「海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する」学習の推進を図り、海洋への関心を高める。
- (3) 「海」という視点を通じて、体験活動やそれらを組み合わせた探究活動を図り、知識・技能、思考力・判断力・表現力を高める。

- (4) 教科横断的な視点に立ち、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成する。
- (5) 生徒が自己の将来や生き方を考え、主体的に進路選択できるよう、キャリア教育の視点からも学習の充実を図る。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

中学校学習指導要領の育成を目指す資質・能力の3つの柱をもとにESDの視点で育成を目指す。

①生きて働く「知識・技能」の習得

【つながりを尊重する態度】

○災害が起きたとき、避難所などで中学生の自分たちができることは何があるかなどを考え、体験などを通して技能を身につけ、地域の中での自分の役割について行動できる力を育成する。

②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成

【他者と協力する態度】

○話し合いを通して意見や考えを深め、アクションを起こすためには協力することの必要性に気づかせる。

【多面的、総合的に考える力】(systems thinking)

○防災や減災、復旧・復興というものに対して、何もできないと考えるのではなく、協力という力はどの状況下においても、必要な力であるということを多面的に捉え、海を利用しながら海を守ることの大切さを学び他者と協働する力を育成する。

③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間力等」の涵養

【長期的思考力】

○糸満のよさを知り、1つ先の糸満市の姿を考えていく事が大切である。地域を活性化させながらも、万が一の時の協力性を養うための「他者との共生、自然との共生」を考えさせ行動できる。

【単元の評価規準】

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①各地の防災への取り組みや糸満市の防災の内容(取り組み)を知り知識を深めることができる。 ②自然災害が起こったら、既習の知識を使い行動する技術を習得することができる。 ③調べたことを図・式グラフなどを用いてまとめる技能を身に付けている。	①自然災害についての対策を自分の考えや解決策を考え伝えることができる。 ②多くの情報を精選し、糸満市の実態や課題を多面的・多角的に考察し、まとめることができる。 ③身近な災害が海洋環境にどう影響をするかを調べ他者に伝えられるようにまとめることができる。	①課題解決に向け、他者と協力して課題解決に向けて自分が出来ることを考え行動している。 ②主体的に何を活用すればより適切な発信につながるかを考えようとしている。 ③他者からの意見を取り入れ次の課題発見や解決に向けて模索しようとしている。

1-7. 単元の展開 (全16時間)

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	これまでの海洋教育を振り返り、今年度の海洋教育についての概要を説明する。 防災キャンプのグループ編成アンケート	これまでの学習の様子 (中1・2の活動時のスライド)。 新聞記事・防災キャンプ資料 アンケート資料 評価 ア①

2 3	外部講師招聘 1 対面【講演会・体験活動】 講話「生きる」 身近な生活用品から救助道具を作り救助しよう	講師 災害プラットフォームおきなわ 共同代表理事 有村 博勝 氏 評価 ア② ウ① ワークシート 毛布 ビニル袋 タオル 雑誌 新聞紙
4 5	外部講師招聘 2 オンライン【講演会・ワークショップ】 「大規模震災から学ぶ」 東日本大震災から学ぶ減災・防災	災害 NGO 結～ yui ～ 代表 前原 土武 氏 評価 イ② ウ①
6	外部講師招聘 3 「糸満ハーレー 講話」	講師 糸満ハーレー行事委員会 参与 与那嶺 和直 氏 講師 上原 義隆 氏 評価 感想シートの活用 PC
特 設	学活・社会【地域・社会見学】 聖地巡礼ウォークラリー 「グループで協力して、糸満ハーレーに関わる歴史の探訪をしてみよう」	指導 安全指導 活動時の注意 教材 糸満市史跡 ワークシート ハガキ新聞 ※安全管理 給水の POINT 確認
7 8	防災新聞作り まとめ①（防災新聞報告会）	タブレット A3 新聞用紙 新聞記事・防災について（図書資料等） 評価 ア③ イ③ ウ② 教材 ワークシート 付箋紙
9 10	新聞報告会【グループ討議】 糸満市の減災・防災について学ぼう ～社会記事から見る地域の災害～【NIE】	各社新聞記事・糸満市災害ホームページ 内閣府防災情報ホームページ 防災マップ ICT 活用 評価 イ② ウ③
11 ～ 15	○外部講師招聘 3【体験学習】 「海洋体験」 防災キャンプ ※台風の影響により今年度中止 【代替案】 ○修学旅行時の水族館他関連施設見学 海洋生物の観察	講師 NPO 法人 ハマスーキ糸満 海人工房・ 資料館 代表 上原 達彦 氏 評価 ア② イ① ウ① 感想シート活用
16	これまでの学びをまとめよう	新聞ワークシート 評価 自己振り返りシート

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

新聞記事で学んだ内容をもとに、外部講師を招聘し、県外の事例をオンライン講話を通して島嶼地域に住む私たちが、持続可能な地域の自治・防災の考えを学ぶ機会とする。オンラインの学習の機会を通して学習の内容を深める。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応		教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
校長の挨拶 講師 災害NGO結～yui～ 代表 前原土武氏 自己紹介	オンラインで講師と生徒をつなぎ、生徒は講師がどのような取り組みをしてきたかを学ぶ。	事前に震災についての問題出題し、掲示された新聞を通して答を書く ※メモが必要な生徒はメモを取る。
①事例を通して学ぶ ○災害について知る ○復興と復旧の違い ○共助・自助について ○ワークショップ Q1糸満市で大規模災害が起きたらあなたができることを考え話し合おう Q2避難生活をする中で中学生のあなたができることは何ですか考え話し合おう	講話を通して、海との共生を学ぶ。 ○人間への被害度が災害の大きさとなっていることを知る。 ○災害が起きる前から必要とされる自助・共助について学び、震災後の再建までの内容を知る。 スライドを活用して話し合いを行い付箋紙に書いて共有 自己解決5分→グループワーク5分を通して他者の意見を聞く	○担任はリモートの不具合がないか確認を行い予備のタブレットも立ち上げておく。 ※講師からの資料をタブレットに配信し生徒はすぐ見れるように立ち上げておく ○必要なメモ用紙を準備する ・タブレットに配信し個人個人が気付いたことを書かせていく。 ・避難所でのイメージしやすくするため (評価の視点) イ②思考・判断・表現 付箋とワークシートより評価 何に気づいたか。何を伝えたいか ウ①主体的に学習に取り組む態度 机間指導による観察
学んだことを感想にまとめる。	メモをもとに感想を400字程度書かせるようにする	※よかったものは新聞に投稿する

2-4. 単元における位置づけ

単元 16 時間中の 8 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-5. 本時の目標

これまでに学習や体験をしてきた防災・減災を通して、中学生である自分たちが何を学んだかを共有することによって自分たちにできること役割を考えさせ、海との共生を含めた地域参画の意識を高め行動につながるようにする。

- ・見方：グループの仲間の考えを自分の考えと比べながら何が違うか・良さを見つけるようにする
- ・考え方：海洋教育は海だけではなく海洋から地域の保安も保全、生活環境について改めて考えさせる。

2-6. 本時の展開

主な学習活動 / 反応		教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
これまでの海洋教育の学びを振り返る	スライドを使い、前半の海洋教育の学びを思い出す。 新聞記事の活用	スライドを活用してこれまでの学びを振り返る。
個人活動:5分感想などをまとめる ・グループの仲間にとどのように自分の学んだことを発表しようか要点まとめをおこなう	作成した新聞の内容：報告したいこと伝えたいことを具体的にまとめる	・生徒にA3判の新聞を配布 (返却) 生徒は作成した新聞を修正したり、発表の準備をする。
グループ活動 (1分)	グループのメンバーの報告を聞く一人ずつ報告したら、付箋紙に乾燥やコメントを書く	一人当たり2分から3分の報告を行うつもりで考えさせる。
全体共有 (3～5分ごと) 読んだ新聞に乾燥を付箋紙に書かせる一人一つ	各グループの新聞を時計回りにローテーションして作成した新聞を回し読みさせる。	※準備するもの <u>主任</u> スライド (学びの軌跡) ワークシート (新聞記事含む) <u>担任</u> 生徒が作成した A3 の新聞 タイマー PC <u>副担任</u> 付箋紙 カメラ
まとめ 9月の防災キャンプの時期につなげられるように考える	新聞・ワークシート・地図を活用しこれまでの学びで何を思ったのか何をしなければいけないのかなどの自分の役割について考えていく。	自己評価：ワークシートの活用 ア③知識・技能 新聞の活用 イ③思考・判断・表現 発表の様子を観察 ウ②主体的に学習に取り組む態度 付箋紙の文言や感想シート ※よかった新聞は、沖縄県中学校文化祭に展示する。

3. 今回の活動の自己評価

単元の評価は、個人の感想シート・ワークシートを活用してポートフォリオの形で行う。単元の中で何に気づき何を習得したか。また活動の状況などを机間指導等で評価するものとする。

生徒に関しては、4月の海洋教育と関連した防災に対する意識や技能は低かったが9月のNIE手法による防災の授業では、意見や知識が高くなった。

①みなさんは災害時に役立つ技能が身についていますか。

②みなさんは自然災害における防災や減災について理解していますか。

については学習前と学習後では学習後が2倍に増えていた。

③みなさんはこの標識は何のマークですか。



に関して学習前には、全問正解の生徒はいなかった。学習後に自宅近くに避難所があることや地域のどこに標識があることを報告したり話したりする生徒や教師が増えた。

学習後生徒の感想には、こんなに多くの避難場所や避難収容ができることに驚いていた。

単元を通して生徒は、「実際に災害が起きた時にはどのように行動することが大切か、また自分の役割を考えている生徒が増え、家族と避難所の確認をする。という感想が多かった。」

4. 今後の課題

- ・単元構想で、学びの後の生徒のゴールの姿を考え、教科と総合の時間を往還させ、生徒の活動を学びや問いにつなげる工夫を共通理解し教科横断等の授業改善を行う。
- ・生徒が主体的に考え行動ができるよう、地域人材や地域教材のさらなる活用方法の模索やESDの視点での支援協力を考える。
- ・防災キャンプが、天候上実施できず残念である。実施でき体験をしていたらもう少し生徒の行動に変容が見られたと考えることから、天候に左右されない計画や代替案の検討も必要。
- ・公共施設以外の使用や移動手段（バス運賃）での活動経費の準備についての課題が挙げられる。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・校外活動では、事前に単元で活用する時間や移動の安全経路、緊急時の連携体制などの構築が必要。
- ・外部講師の招聘については、時間を要するため講師の都合などの確認を行う。
- ・オンラインにおける授業の場合は、事前に接続やネット環境などの確認を行う。
- ・個人情報、著作権の関係から、資料として写真やデータを活用する場合、関係者への事前の確認が必要。
- ・対面においては、場所の広さ、講師の数等、予算面での調整を行う。